

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 28 年 7 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 28 年 4 月～6 月期の実績および平成 28 年 7 月～9 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	15 社	50.0%
水産業部会	30 社	19 社	63.3%
機械工業部会	30 社	15 社	50.0%
建設業部会	30 社	22 社	73.3%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	20 社	66.7%
合 計	150 社	91 件	60.7%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

ー業況は18期振りに再び▲30台へ悪化するも、次期は前回値まで回復の見込みー

1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成28年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では▲30.8**と前回調査時の▲12.6より**18.2ポイントの悪化**という結果になりました。

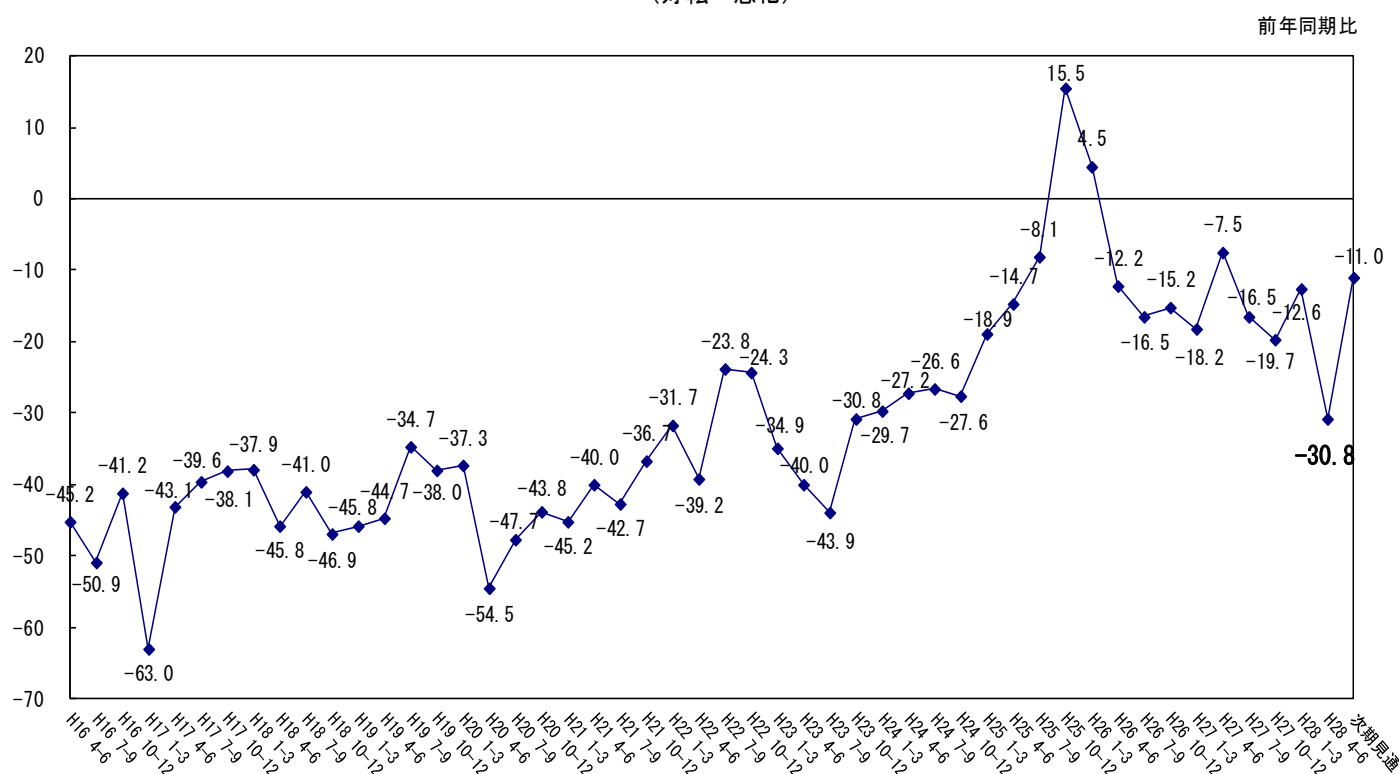
部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値23.8→今期▲20.0]、水産業[前年DI値▲26.3→今期▲36.8]、機械工業[前年DI値▲20.0→今期▲13.3]、建設業[前年DI値▲15.8→今期▲40.9]、観光・サービス・諸業[前年DI値▲5.3→今期▲35.0]となりました。

大きな値ではないものの、商業・食品業と機械工業が前年同期と比較し改善した一方、最も悪化幅が大きくなったのが観光サービス業、次いで建設業、水産業という結果となりました。水産資源の原料不足による価格高騰で、観光サービス等においても仕入れ単価が上昇し、特に冬期間の低気圧で壊滅的な被害を受けたホタテの価格が高騰し大きな影響を受けているとの声が寄せられております。また、介護関連についても国の報酬減や従業員の確保難により業務の遂行に影響が出てきているとの声も寄せられている他、消費税増税の延期により、年間計画を作成している企業にとっては、計画の見直しを余儀なくされているとの声も寄せられております。

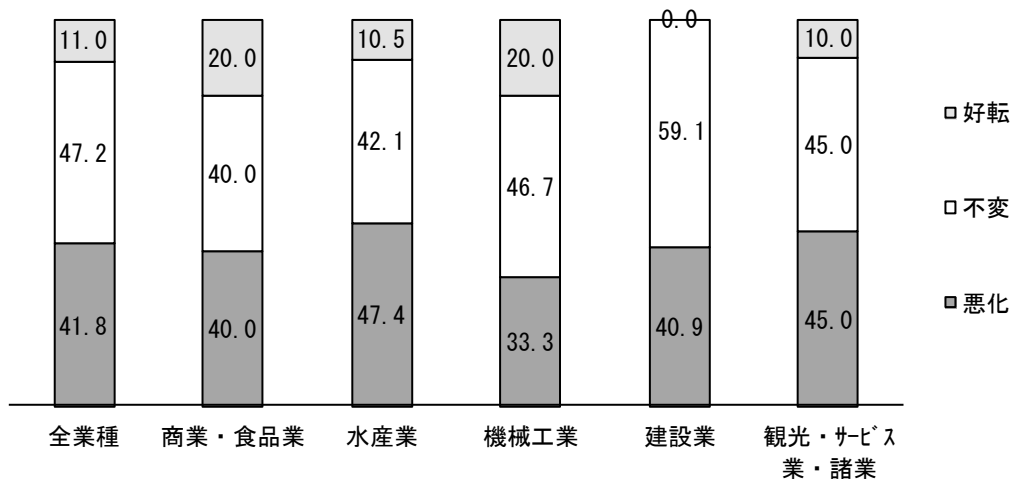
来期(平成28年7月～9月)については、今期と比べて**業況判断DIが19.8ポイント改善**するとの予測となっています。商業・食品業は横ばいながらも、その他の業種全てが今期よりも改善の見込みとなっており、最盛期を迎える水産業、建設業に加え、夏の観光シーズンや各スポーツ合宿等紋別への流動人口の増加による影響に期待感が持たれます。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

(好転－悪化)



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全体的に依然として需要の停滞と仕入れ単価、原材料等の価格上昇を訴える声が多く、特に水産業部会では、平成26年冬にホタテの漁場に甚大な被害を受けたことによる、原料不足と原材料単価の上昇に苦慮しているとの声が寄せられ、長引く影響の大きさに、悲痛な声も寄せられております。また、人手不足を訴える声が多く、設備投資については、時期未定の実施予定も含め、例年より若干減少傾向に推移する動きとなっております。

■部会別の動向

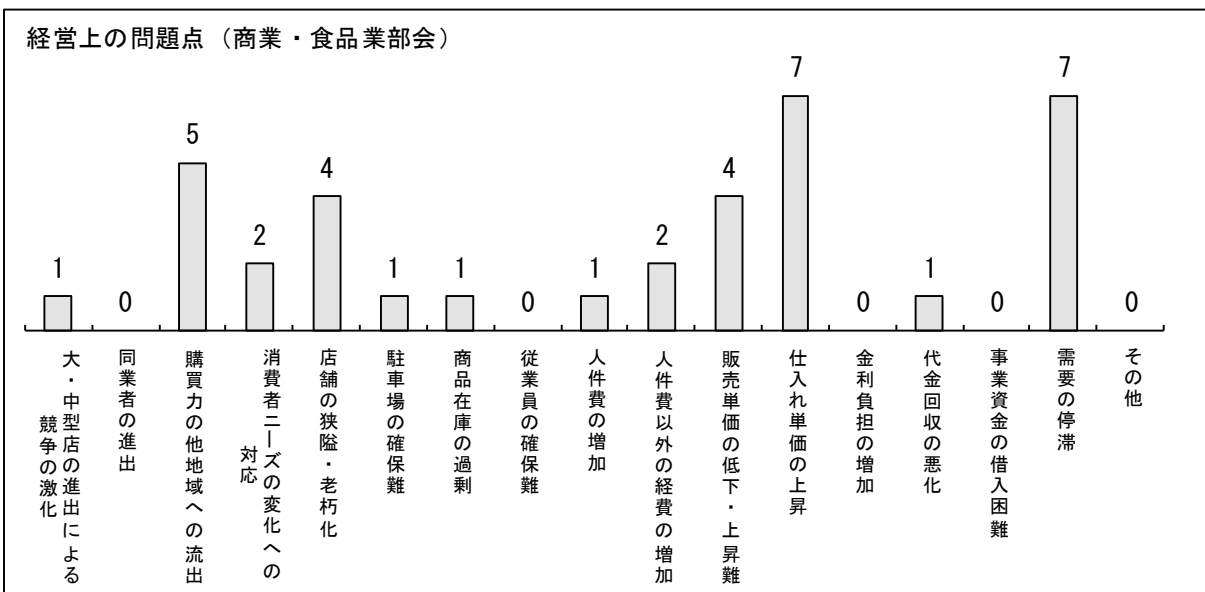
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲20.0（前年DI値23.8、来期見通し▲20.0）〕

業況DI値（前年同期比）は、前年同期より43.8ポイントの大幅な悪化となりました。昨年は6月1日より「もんべつ地域活性化商品券」が販売されたことも影響し+23.8と、前々年同期の▲22.2と比較し大幅に好転していたことから、商品券によって一時的に消費が刺激されていたことが窺えます。次期は▲20.0で横ばいの見通しとなっておりますが、夏の観光シーズン、またスポーツ合宿等で市内の流動人口が増加することから、商業にも影響があるものと思われます。

経営上の問題点としては「仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・高齢化（食料品小売）
- ・顧客数の減少（食料品卸売）



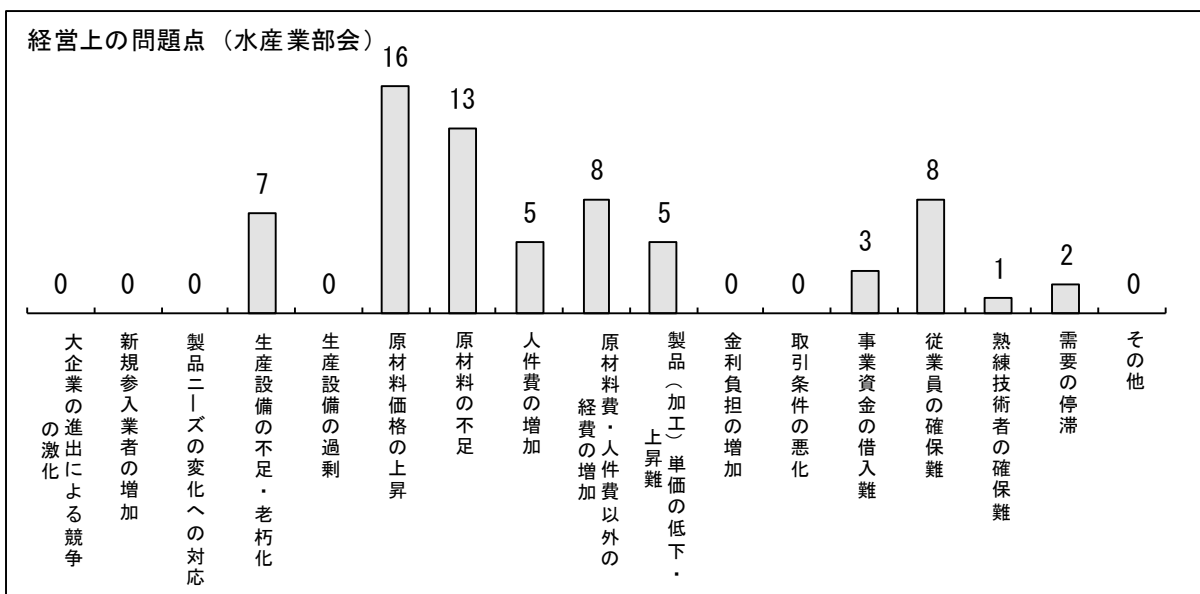
【水産業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲36.8（前年DI値▲26.3、来期見通し▲10.5）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年よりも10.5ポイント悪化となりました。主力であるホタテの冬期の低気圧による甚大な被害や、ロシアとの協定によるカニの輸入減少に加え、様々な魚種で漁獲量が減少していることから、昨年よりも原材料価格や原料不足を訴える声が多くなっており、昨年よりも更に事態は深刻化しております。

経営上の問題点としては「原材料価格の上昇」「原材料の不足」を訴える声が多く寄せられております。

《業界の問題点等》

- ・悪天候でホタテ漁が減産に追い込まれ、水揚げ量が昨年の半分となる中、市内水産会社には昨年の1/3しか振り分けされておられません。水産加工会社なくしては、紋別の発展はありません。地元の水産会社を守るためにも、漁師、漁組、水産会社が協力し合うことが紋別市の発展に繋がると深く考えています。互いに痛み分けをし、紋別の発展に貢献するべし！（水産加工）
- ・原材料不足及び原材料費の高騰（水産加工）



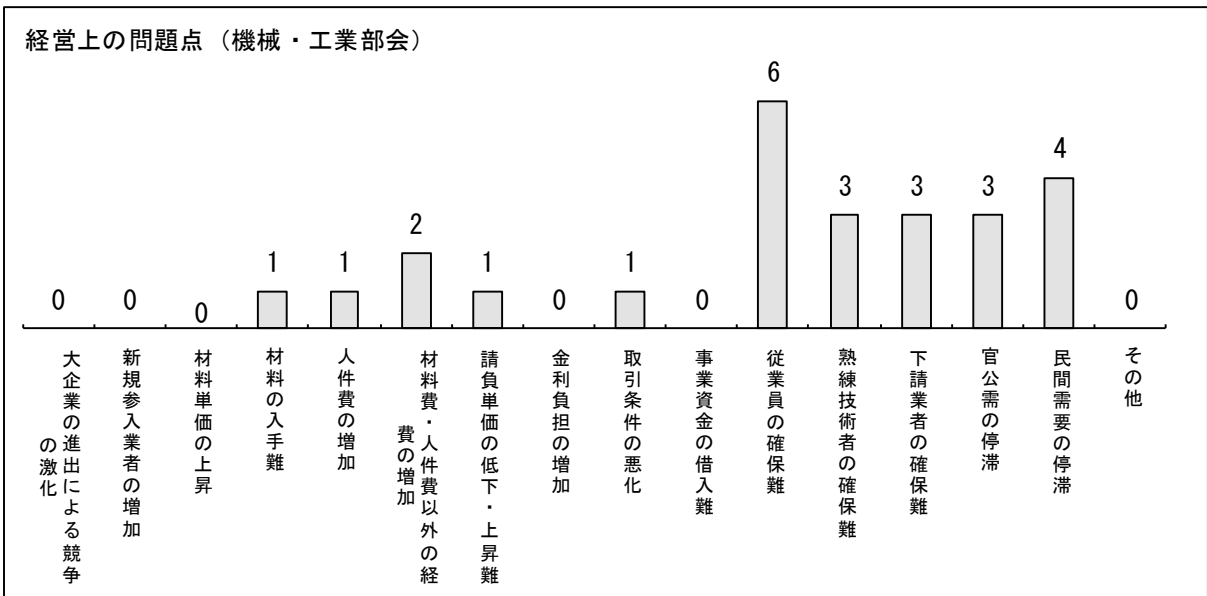
【機械・工業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲13.3（前年DI値▲20.0、来期見通し6.7）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値と比べると6.7ポイントの回復となりました。他の業種で業況が大きく悪化等変化があるものの、全業種の中で最も業況が安定していることが窺えます。各業種が繁忙期となる次期見通しは、今期よりも20ポイント好転と唯一プラス圏内へ回復する予想となっております。

経営上の問題点としては「従業員の確保難」「民間需要の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・消費税10%延期に伴う年間計画の見直し。自動車諸税複雑。（自動車販売）



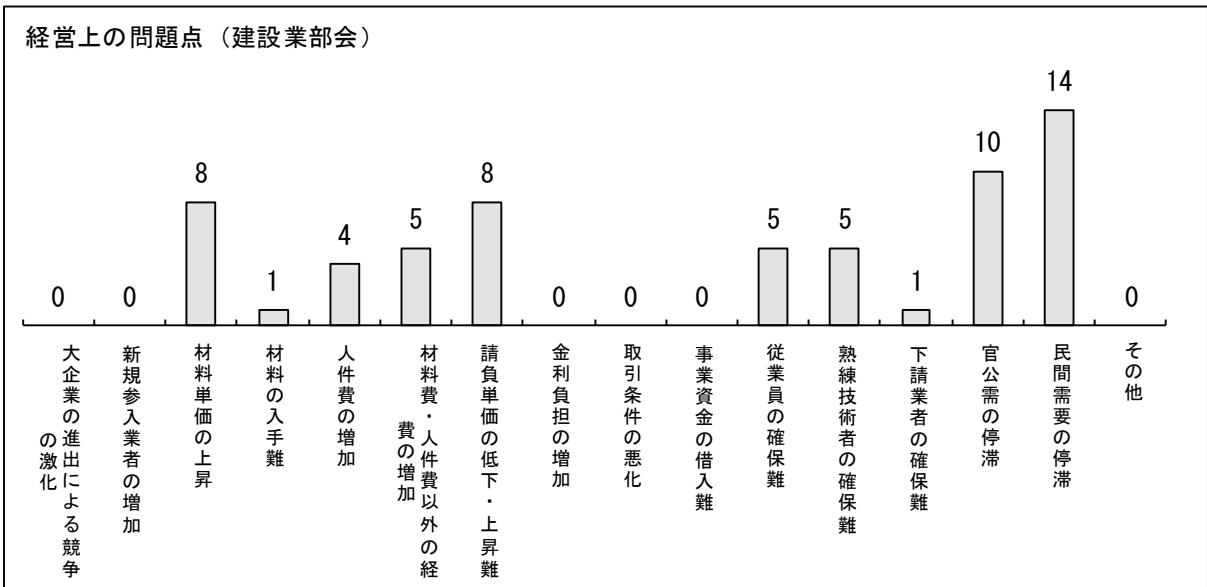
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲40.9（前年DI値▲15.8、来期見通し▲22.7）〕

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値から25.1ポイントの悪化です。昨年で大規模工事が一段落したことによる反動と、円安による建築資材の単価上昇に加え、官公・民間の需要停滞が要因と考えられます。市内各所での水道や電気工事が行われておりますが、各家庭の太陽光発電の工事等、来期は繁忙期に入ることから、今期よりも大きく回復する見通しとなっております。

経営上の問題点としては「官公需・民間需要の停滞」「材料単価の上昇」「請負単価の低下・上昇難」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・ 請負単価が安い（装飾業）
- ・ 官・民の仕事の減少で大変（土木工事）



【観光サービス・諸業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲35.0（前年DI値▲5.3、来期見通し▲5.0）〕

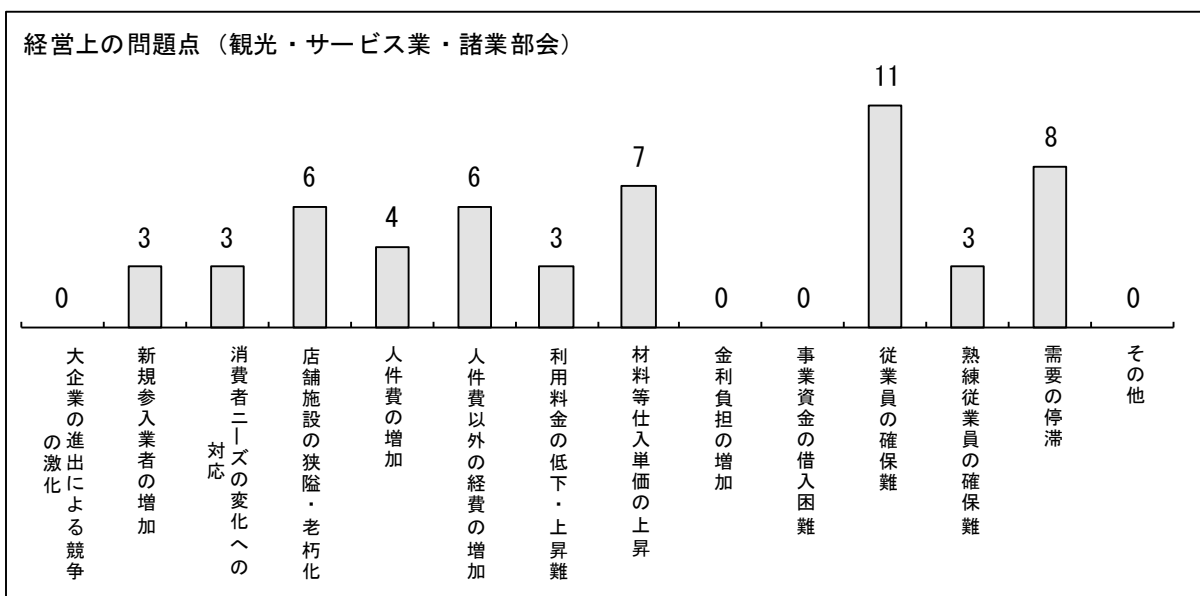
業況判断DI値（前年同期比）は前年DI値よりも29.7ポイントの大幅悪化となりました。飲食関連では、原料不足によるホタテの値上がりを始めとした海産物の仕入値高騰、理美容や生活に密着したサービスでは、人口減少や高齢化による需要の停滞を訴える声が多くなっており

ます。また、国の政策により収入が変動する介護関連でも介護報酬の減少や従業員の確保に苦慮しているとの声が寄せられております。来期見通しは26.3ポイント悪化となっておりますが、夏の観光シーズンに入ることから、悪化幅が抑えられることに期待しています。

経営上の問題点としては、「材料等仕入れ単価の上昇」「従業員の確保難」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

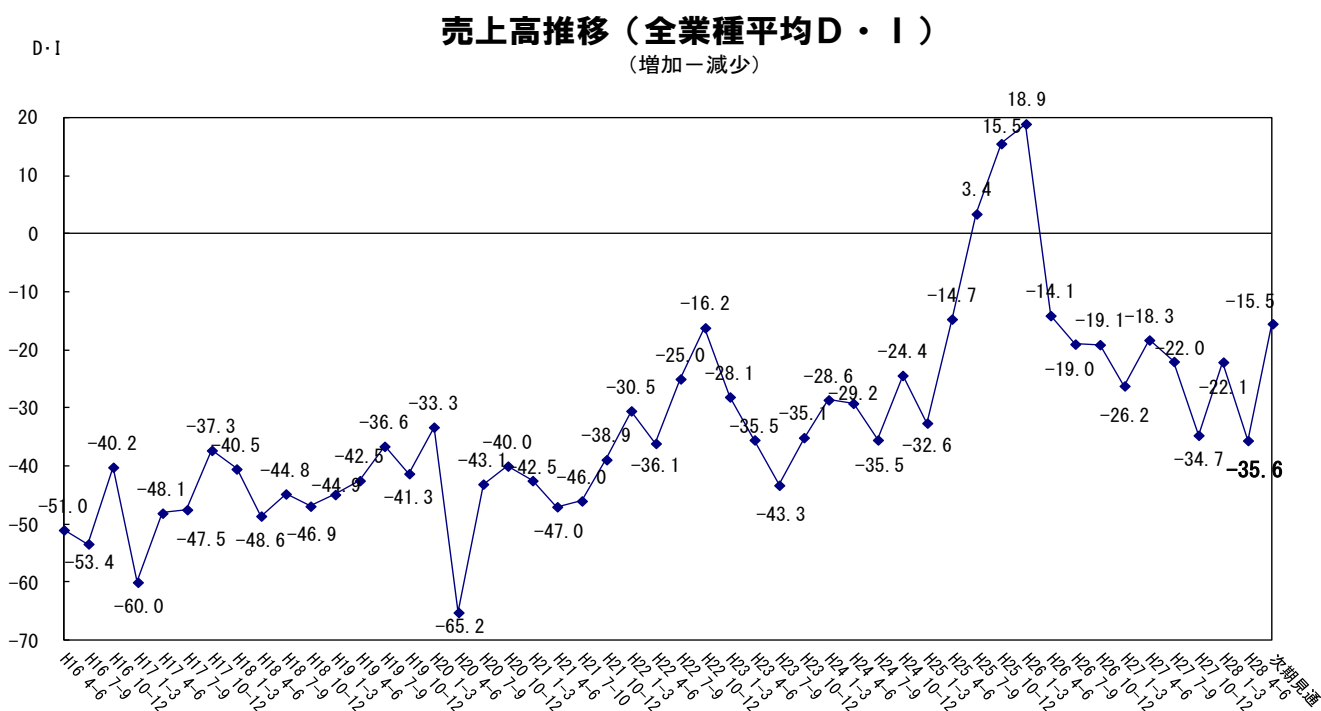
- ・魚介類の不足、仕入れの高騰。特にホタテが高い。(飲食業)
- ・人口減少に伴う需要・売上の減少。(娯楽業)
- ・介護業界は介護保険収入の減少及び介護職員の不足により経営の危機にある。(介護)
- ・国からの報酬の減(介護)



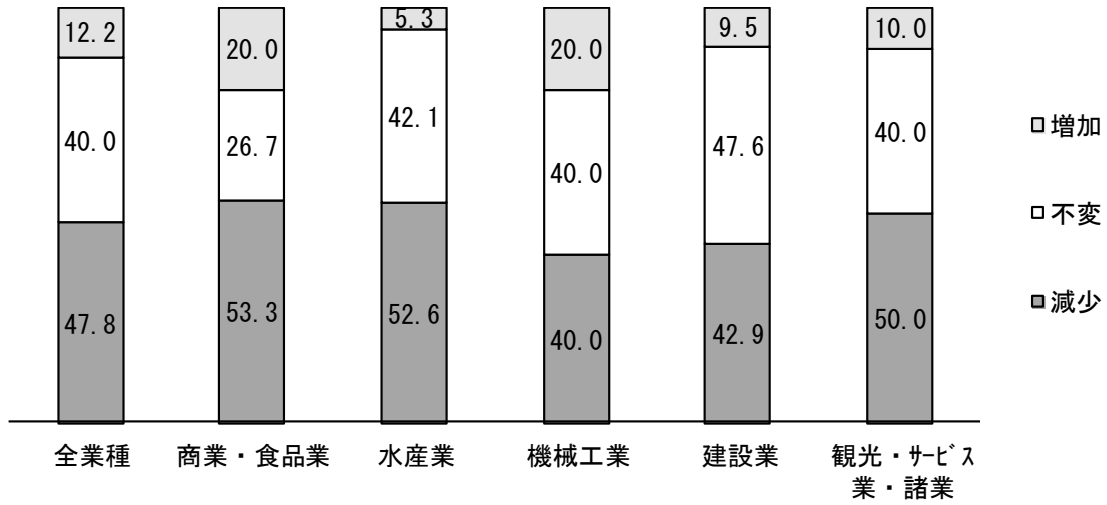
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】(平成27年4月～6月期の水準と比較した今期の売上高)



今期の売上高・生産高（前年同期比）

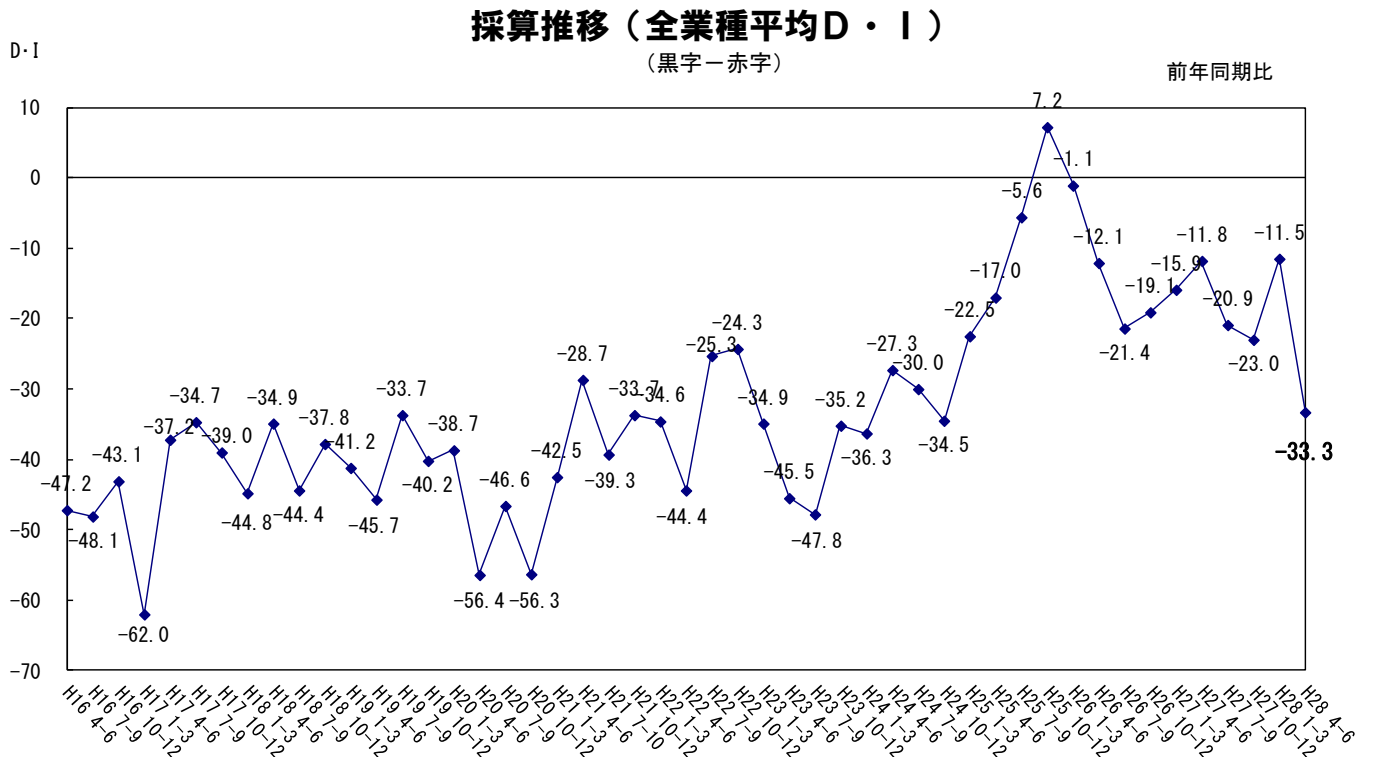


全業種平均でDI値▲35.6〔前年DI値（平成27年4～6月期▲18.3）より大きく減少〕

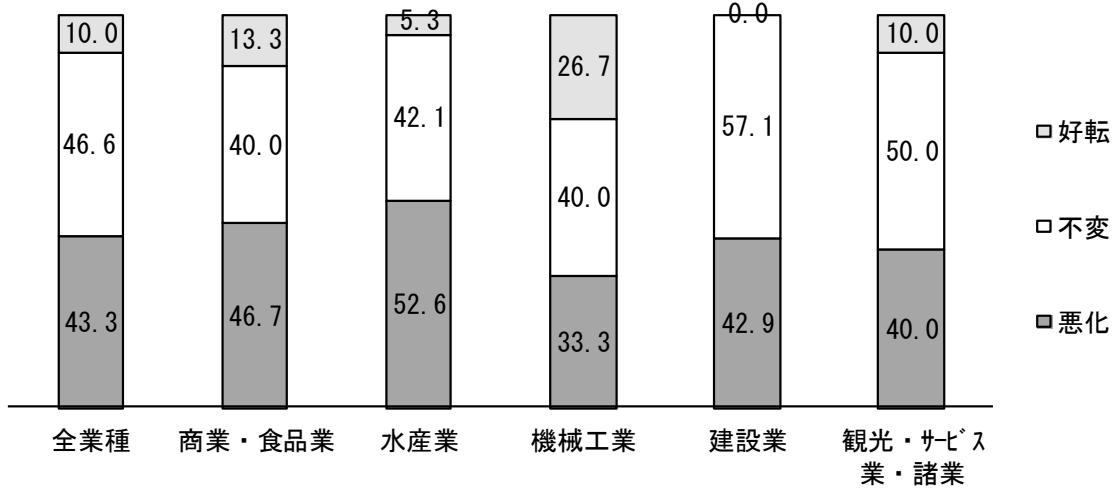
[部会別DI値] 商業・食品業〔前年0.0→▲33.3〕、水産業〔前年▲36.8→▲47.4〕
 機械工業〔前年▲20.0→▲20.0〕、建設業〔前年▲15.8→▲33.3〕
 観光・サービス業〔前年▲21.1→▲40.0〕

(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成27年4月～6月期の水準と比較した今期の採算水準）



今期の採算（前年同期比）

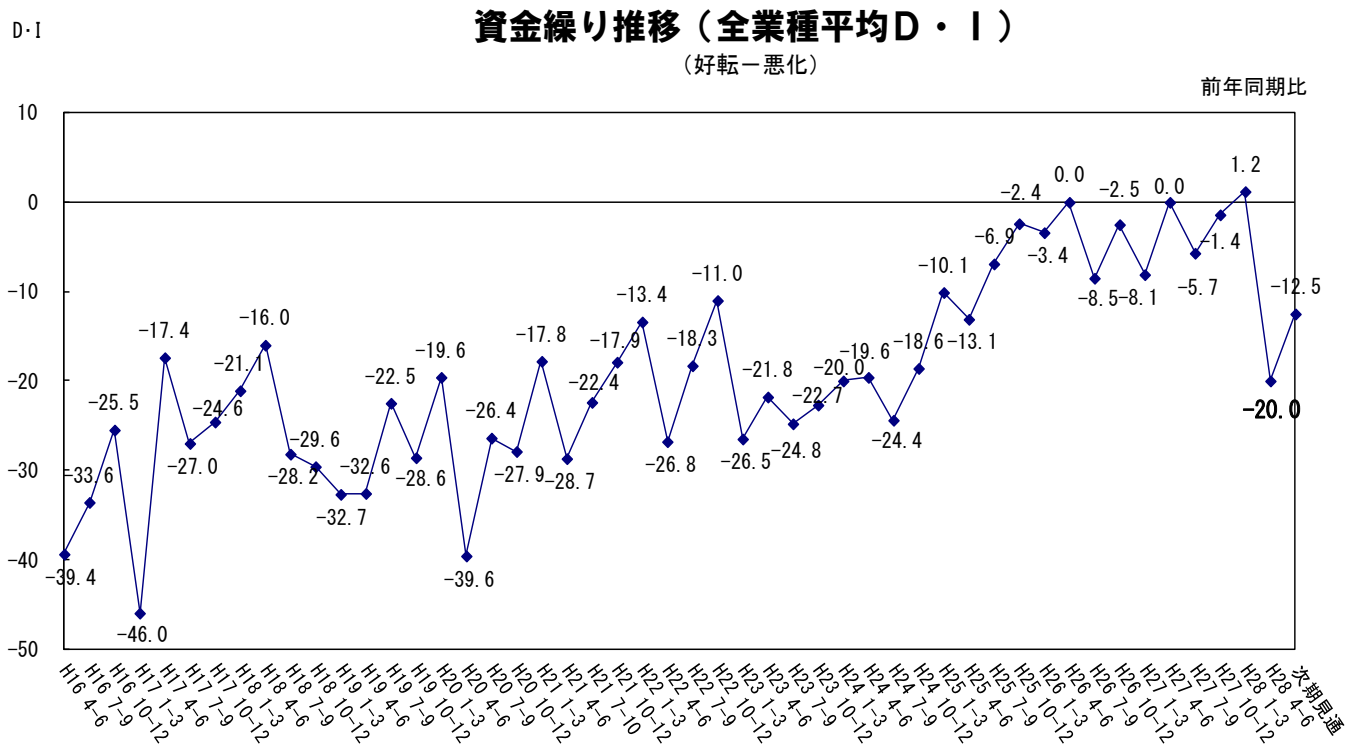


全業種平均でDI値▲33.3〔前年DI値（平成27年4～6月期▲11.8）より大幅悪化〕

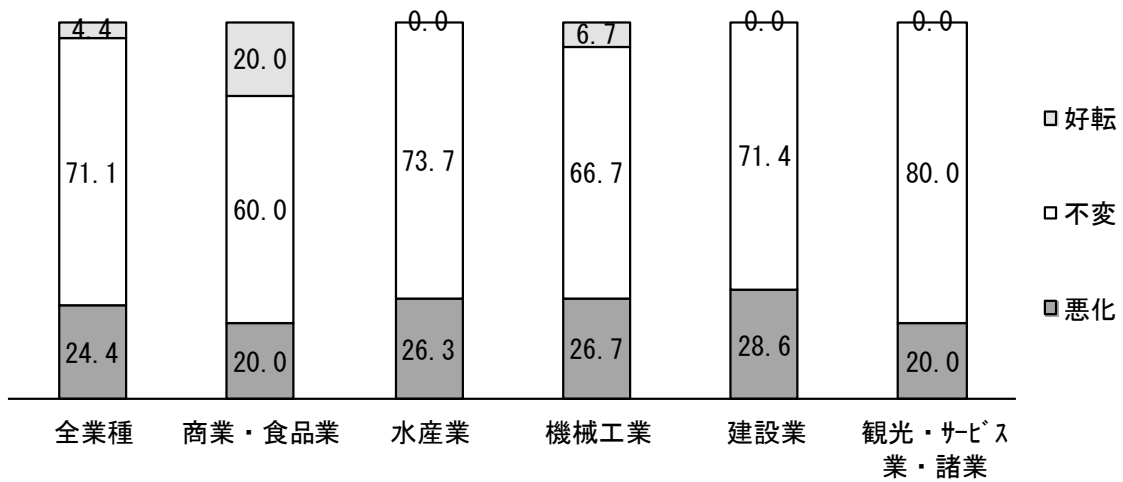
【部会別DI値】 商業・食品業〔前年14.3→▲33.3〕、水産業〔前年▲26.3→▲47.4〕
 機械工業〔前年▲13.3→▲6.7〕、建設業〔前年▲26.3→▲42.9〕
 観光・サービス業〔前年▲10.5→▲30.0〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成27年4月～6月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）



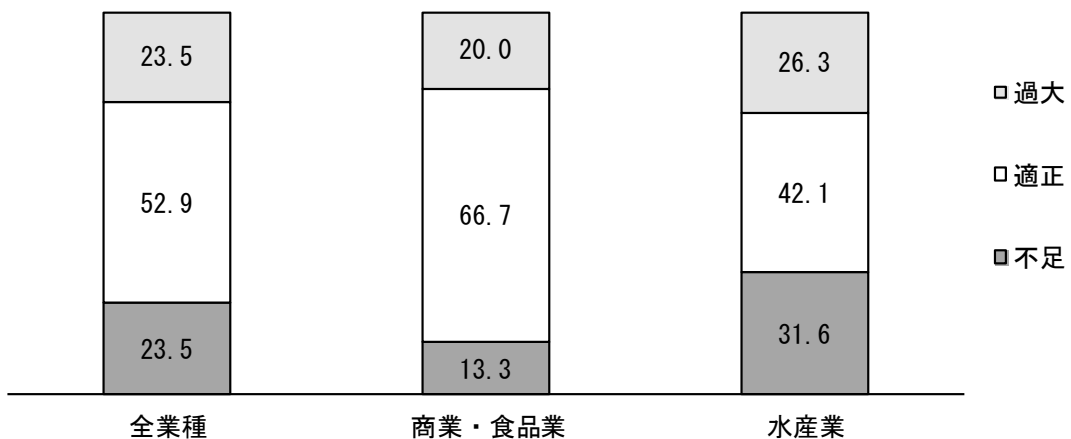
全業種平均でDI値▲20.0〔前年DI値（平成27年4～6月期0.0）より20ポイント悪化〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年19.0→0.0〕、水産業〔前年▲10.5→▲26.3〕
 機械工業〔前年13.3→▲20.0〕、建設業〔前年▲15.8→▲28.6〕
 観光・サービス業〔前年▲5.6→▲20.0〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成27年4月～6月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

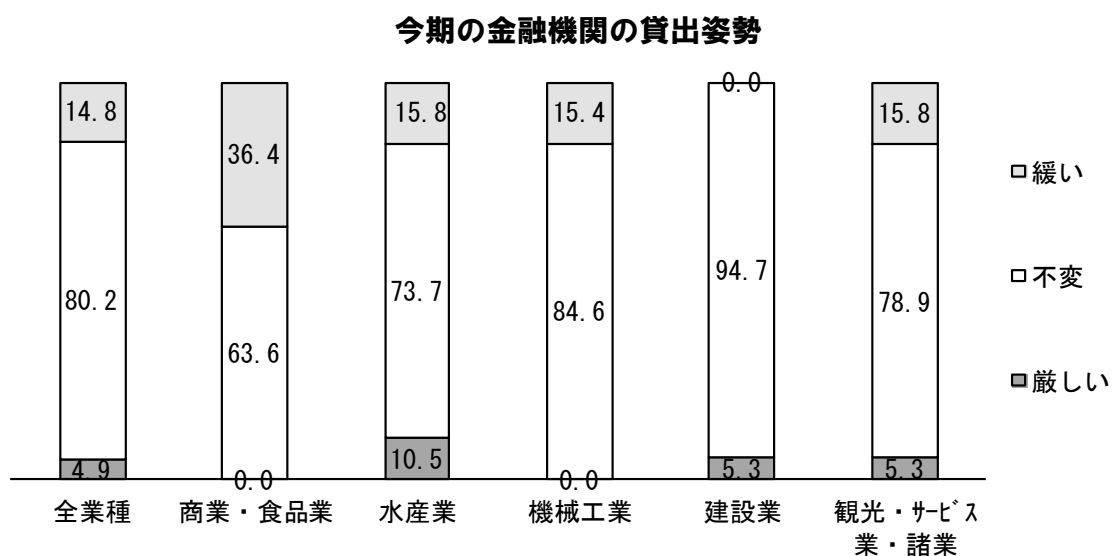


全業種平均でDI値0.0〔前年DI値（平成27年4～6月期▲18.8）より18.8ポイント不足〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前年5.0→6.7〕、水産業〔前年▲42.1→▲5.3〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

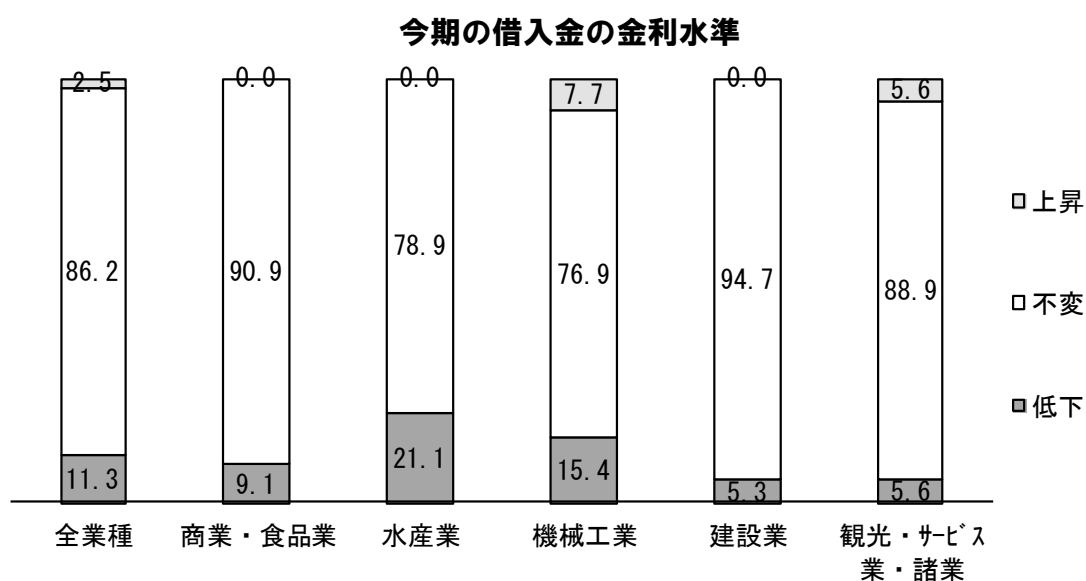
【前年同期比】（平成 27 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均 9.9 ポイント。商業食品業 36.4、水産業 5.3、機械工業 15.4、建設業▲5.3、観光サービス業 10.5。

(6) 今期の借入金の金利水準

【前年同期比】（平成 27 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）

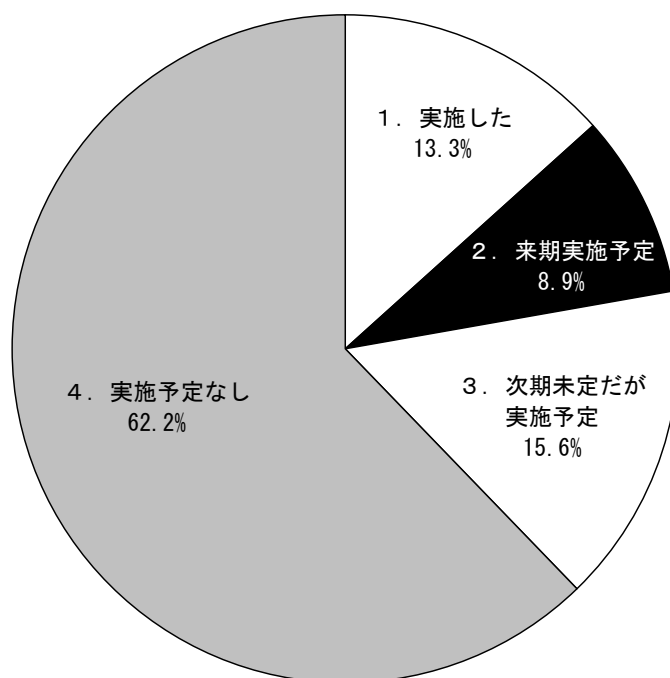


全業種平均で▲8.8 ポイント。商業食品業▲9.1、水産業▲21.1、機械工業▲7.7、建設業▲5.3、観光サービス業 0.0。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

設備投資の実施状況

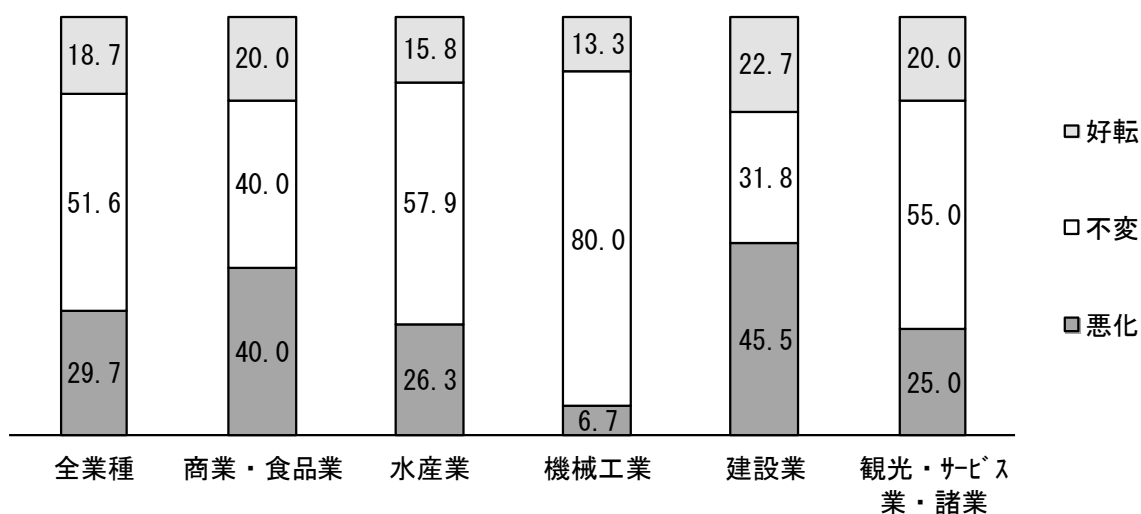


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成28年4月～6月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

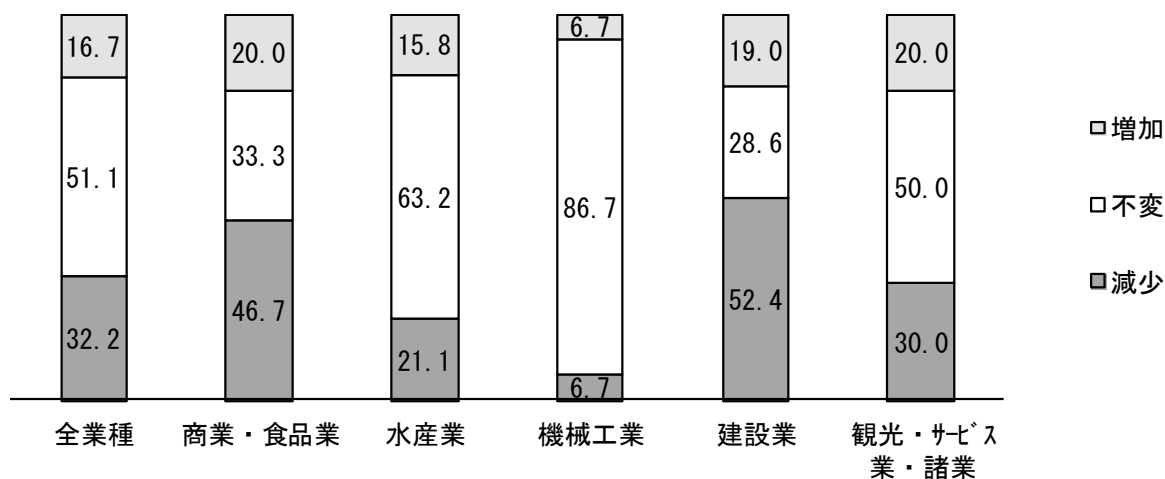


全業種平均DI値▲11.0 [今期の業況（前年同期比▲30.8）より19.8ポイント好転の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

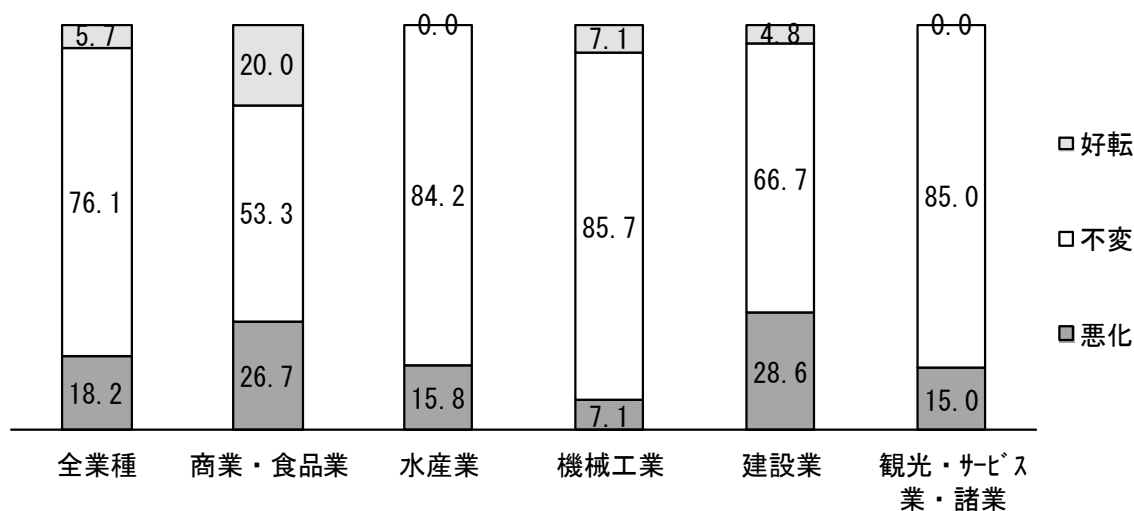


全業種平均 DI 値▲15.5 [今期の売上高・生産高（前年同期比▲35.6）より 20.1 ポイント増加の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 28 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 ▲12.5 [今期の資金繰り（前年同期比▲20.0）より 7.5 ポイント好転の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サービス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲30.8	▲20.0	▲36.8	▲13.3	▲40.9	▲35.0
	来期見通し	▲11.0	▲20.0	▲10.5	6.7	▲22.7	▲5.0
売上 D・I	今期実績	▲35.6	▲33.3	▲47.4	▲20.0	▲33.3	▲40.0
	来期見通し	▲15.5	▲26.7	▲5.3	0.0	▲33.3	▲10.0
在庫 D・I	今期実績	0.0	6.7	▲5.3	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲33.3	▲33.3	▲47.4	▲6.7	▲42.9	▲30.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	▲20.0	0.0	▲26.3	▲20.0	▲28.6	▲20.0
	来期見通し	▲12.5	▲6.7	▲15.8	0.0	▲23.8	▲15.0
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	9.9	36.4	5.3	15.4	▲5.3	10.5
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	▲8.8	▲9.1	▲21.1	▲7.7	▲5.3	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。